

子どもの学習活動にも彼の欲している援助をしない。子どもは学習が理解できるようになる期間が長くなり、学習意欲を失ってくる。学校からの通知も親に見せないの、親の足は学校からさらに遠のく。こうなれば、悪い結果が出るのは予想できるでしょう。数年、在籍しても、英語力も身に付かず、学校での存在感も味わえないままに帰国していく。悲しげに話されていた。

【4】受け入れ校の調査から

海外子女教育専門相談員連絡協議会では昨年10月、小中高の帰国児童生徒受け入れ校のアンケート調査を行った。

そのうち100校から回答を頂いた。この調査での結果でもこの10年間で学力差が大きくなったと答えている学校もある。

受け入れ校の場合は、日本の学習を中心に生徒を観察しての回答であるが。ある点では現地校の学習を考慮して回答している面もある。

(1) 現地で親はどんなことをすればよかったでしょうか。という問いに、次のように答えている。

- ① 通学している学校での学習を第一として頑張らせる
- ② 海外でしか得られない体験をさせ、海外生活を楽しんでほしい。
- ③ 海外での学校時代にルールをしっかりと守り、きちんと学習した子どもは、日本でもきちんとできる。
- ④ 先生と連絡をとり合おう。
- ⑤ 英語力アップには、家庭で書く練習も大事です。
- ⑥ 英語力の保持伸長には、英文の読書が不可欠で、親の援助が大事。
- ⑦ 日本語に関しては、親の対応で大きく差が開くと答えている。いうなれば、子どもの教育は、親の関心や協力の差が、子どもの学力の差となっている。

(2) 日本の学習で親にやってほしかったこと。

- ① 現地でも、家族の会話は日本語ですること。
- ② 日本語の基礎を身に付けさせること。
- ③ 日本の本を沢山読ませること。
- ④ 日本文化に意図的に触れさせること。
- ⑤ まんがは効果的であった。例、「マンガ日本昔話」「さざえさん」「ちび丸子ちゃん」など。
- ④ 日本の小学校の算数・国語は親でも教えられる。
- ⑤ 日本の小学校の教科書は親子で目を通しましょう。



張江 幸男 (はりえ ゆきお)

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問

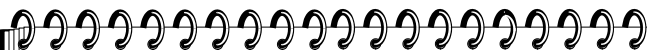
前全日本空輸(株)海外子女教育相談室長、元三菱商事(株)相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北日本人学校教頭

- ⑥ 日本の都道府県名や庁所在地名は、地図見ながら覚えさせる。
- ⑦ 日本の新聞雑誌は取り寄せて見させる
- ⑧ 九九を完全に覚えさせる。
- ⑨ 鉛筆の正しい持ち方覚えさせる

(3) ものの考え方や行動で、国内生にいい影響を与えたことがありましたか。

- ① 何事にも積極的である。
- ② リーダーシップがとれる。
- ③ プレゼンテーションがうまい。
- ④ 自分の考えをはっきり言ったり、行動が出来る。
- ⑤ 異文化体験を国内生に伝えてくれる。
- ⑥ 国内生に多様な価値観があることを教えてくれる。
- ⑦ 英語学習で国内生に良い刺激を与える。
- ⑧ 視野が広く、「社会」や「総合学習」などで、授業を発展させた、国内生に身近な「世界」を教えてくれる。
- ⑨ 海外の文化や慣習に関心を持つ生徒が増えた。
- ⑩ 海外生活で、自分が温かく育てられた経験から、他の先生や生徒たちにも開かれた意識がある。
- ⑪ 帰国児童は本校の「宝」、有形無形に良い影響を与えている。
- ⑫ 大変素直である
- ⑬ 躰がよく出来て、丁寧な日本語を使う。
- ⑩ ALTと積極的に関わる。
- ⑪ 将来の自分の進路をしっかりと考えている児童が多い。

ある受け入れ校では、両親にお願いしたいのは、海外赴任直前に、赴任都市の教育や生活についての情報収集を、親子で一緒に行う。関係者との連絡をしっかりと取っておき、必要に応じてサポートを受けられるようにしておくこと。一方、日常的には子どもの問題は子どもに任せつつ、子どもの話には十分耳を傾ける。子どもの成長を見守り続ける姿勢が大事です。と答えている。噛みしめたい言葉ですね。



海外・帰国子女教育専門機関 JOBA

〒145-0064 東京都大田区上池台 3-39-9
TEL : 03-5754-2240 FAX:03-5754-2241
HP : www.jolnet.com



海外での子育て・教育に悩む保護者にとって、張江先生がここで紹介された日米の先生方の声は貴重です。

特に、「受け入れ校調査」の現地校や家庭での「親」の出来る事のリストは、帰国児童生徒に直接に接しておられる先生方の声なので、傾聴に値します。

そして、その具体的指摘や内容が、保護者の日常の努力によって実施可能のように、私には思えます。読者の皆さん、いかがですか？